


井上 素子	自然地理学	① 職歴・経歴 埼玉県立博物館学芸員・さいたま川の博物館学芸員を経て、埼玉県立自然の博物館学芸主幹。
いのうえ もとこ		② 過去の業務実績 企画した主な展示：H17年度「石の用と美」 H18年度「いくぞ！自然の博物館」 H21年度「鉱物の魅力」 H2年度8「ジオパーク秩父のアナ」 H29年度「秩父鉱山」 R1年度「地図と模型で見る埼玉の大地」 R3年度「自然の博物館100年の軌跡」など 編集：H31「埼玉の自然誌～埼玉の自然を知る・学ぶ～」 R2「埼玉の自然誌～埼玉の自然を見る・感じる～」 最近の講演テーマ：R1「ブラタモリ番組制作に学ぶ博物館のアウトリーチ活動のあり方」・「埼玉10万年の旅」 R3「県内の前川建築をめぐる—自然の博物館—」「深谷の地形と自然災害—洪沢栄—生誕地血洗島を中心として」 R4「火山のない埼玉の火山災害」
	埼玉県における石材の利用や過去の自然災害履歴などを中心に調べています。	③ 研究業績等 H16「火山活動が河川に及ぼす影響—浅間山天明3年噴火が利根川中流域に与えた影響について—」 H18「火砕性溶岩流としての鬼押出溶岩流」 H26「新荒川扇状地・妻沼低地周辺の地形・表層地質および浅層地下水の実態とその変化」(共著)・「火山噴出物による利根川河道変遷解明の可能性」 H28「埼玉県長瀬地域の自然銅の分布・産状および採鉱記録について」 H29「ジオパーク秩父のジオサイト再認定方針」 H30「国会議事堂の蛇紋岩石材産地の特定—秩父市黒谷の採掘場跡—」 ④ メッセージ 自然分野と人文分野を総括的に取り上げた事業の展開を心がけている。大地の営みが暮らしと密接にかかわっていることを紹介していきたい。研究テーマは、火山活動が河川に与えた影響や、明治～昭和初期の土砂災害履歴、埼玉県産石材の採掘履歴、令和元年水害被害状況など、埼玉県における石材の利用や過去の自然災害履歴を中心に調べている。